日付　　昭和20年7月26日

徳山大空襲 1945 年(昭和 20)5 月 10 日に広島・山口両県に飛来した B29 の編隊は延 180 機を超え、山口県では岩国と徳山の軍事施設が爆撃された。徳山市では、午前 10 時過ぎに 80 機の編隊が侵入し、第三海軍燃料廠・大浦油糟所・徳山鉄板工場の一部などを、約 1 時間にわたり爆撃した。
このため燃料廠の全機能は破壊され、死者 500 余名、重軽傷者 1,000 余名に及び死者の中には動員学徒尾含まれていたついで、7 月 26 日の午後 11 時過ぎに延べ 100 余機の B29 の編隊が、徳山市上空に侵入し、多数の焼夷弾と小型爆弾を投下した。このため、市街地はたちまち炎の海と化し、工場・会社・民家を含めて市街地の約 90%が一夜にして焼け野原と化した。
この空襲の被害は、被災家屋 4,622 戸、うち全焼 4,590 戸で、罹災人口 1 万 6 ,512 人、うち死亡者 482 人、負傷者 469 人を出した。
終戦後、戦災復興都市計画事業は頂調に進められ、10 数年後に完成し、昭和 35 年 9 月にこの事業完成の記念式が挙行された。この事を記念して、代々木公園内に巨大な石碑が建立されている。

日付　昭和20年7月26日